

■出演者

コンサートマスター

三溝 健一

第1ヴァイオリン

上野 圭子
加藤 由香里
小菅 宏造
坂口 和久
杉山 晴生
洲崎 匡
田村 さやか
橋本 士郎
横田 幸恵
吉村 理
岩田 貴守＊
折原 裕子＊
本間 久貴＊

第2ヴァイオリン

青木 由美子
泉 紀子
小坂 結
高松 理恵
竹澤 敏江
田中 教生
平原 良晃
藤山 昌子
藤原 満
水谷 怜
山田 美幸
佐藤 理果＊

ヴィオラ

清水 哉子
古海 法雲
渡辺 みほ
大庫 るい＊
寺島 希容子＊
長尾 幸＊
宮入 徹＊
横田 裕祐＊

チェロ

稲井 進
上野 敦子
大坪 美樹
加藤 史子
佐藤 慎悟
惣塚 弘
高橋 文子
水澤 由紀

コントラバス

秋山 雅央
小柳 茂
吉崎 須賀子
渡辺 光
松原 直之＊

フルート

木村 千尋
齊藤 孝久
福田 幸久
丸山 恵理
森澤 拓

オーボエ

羽賀 純子
橋本 直子
皆川 正弘
皆川 未央

クラリネット

伊藤 志帆
齊藤 直美
菅野 真木子
鈴木 和久
富田 洋加

ファゴット

福島 梓
宮口 弘明

ホルン

笹川 修一
須田 孝義
森 真人
綿貫 英紀

トランペット

杉山 さくら
中原 美千佳
水澤 学
佐野 明彦＊

トロンボーン

笠野 光雄
松田 彰英
山川 伸一

チューバ

白水 誉哲

パーカッション

稲田 善智
中原 健二
阿部 真代＊
藤澤 紀章＊
綿貫 佳子＊

ハープ

和泉 吏理香＊

＊は賛助出演ならびに団友

JOETSU
SYMPHONY
ORCHESTRA

上越交響楽団 第69回定期演奏会

♪ワーグナー／楽劇「ニュルンベルクのマイスタージンガー」第一幕への前奏曲
♪チャイコフスキー／バレエ音楽「白鳥の湖」から
♪フランク／交響曲ニ短調

2012. 9/2(日)
14:00開演

上越文化会館 大ホール

■次回演奏会のご案内

第70回定期演奏会

日時：2013年3月2日(土)18:30開演

会場：上越文化会館 大ホール

曲目：モーツァルト／歌劇「魔笛」序曲

グリーグ／「ペールギュント」第1組曲、第2組曲より抜粋

シューマン／交響曲第3番「ライン」

■団員募集のご案内

上越交響楽団では団員を募集しております。

通常オーケストラで演奏される楽器であれば、どなたでも入団できます。

素敵で愉快的な仲間達と素晴らしい音楽を創りましょう。

団員一同心より歓迎いたします。

連絡先 Mail: mako2034@joetsu.ne.jp Tel: 090-1606-1254(茨木)
ホームページ <http://www.5a.biglobe.ne.jp/~jsovn/>

主催／上越交響楽団
後援／上越市教育委員会

ごあいさつ

元気のいい時は元気のいい曲を聴きたくなる。
では悲しい時は？

元気を出すために元気のよい曲を聴くのではなくて、悲しい曲を聴きたくなります。そうすると何故か立ち直っていけそうです。
音楽は楽しい曲、悲しい曲、勇ましい曲、憂鬱な曲、等々、色々な気分の曲が有ります。音楽は人の心にそっと寄り添うような、それでいて、相当強いインパクトをもって、私たちの生活の中に溶け込んで来るのでしょうか。

今日の一曲目は堂々と胸を張って歩いているような曲です。二曲目は物悲しくて涙が出そうで、心にじんとしみこんで来るような聞き覚えの有る曲がふんだんに。チャイコフスキーの超有名な曲です。ところで三曲目はどうでしょう。ちょっと不思議な感覚に包まれる名曲です。フランクという余り聞いたことが無いような作曲家ですが、ベートーヴェンやリストが提起したテーマを取り入れています。ベートーヴェンが投げかけた疑問に答えようとしているのでしょうか。あるいはもっと疑問を膨らませて私たちに投げかけているのでしょうか。

今日は上越交響楽団の定期演奏会にお越しくださいまして、ありがとうございました。どうぞ今日の演奏会をお楽しみ下さい。

上越交響楽団 団長 古海法雲

指揮者

Hasegawa Masanori 長谷川 正規

東京藝術大学音楽学部器楽科にてチューバを専攻。学部在学中に安宅賞を受賞。同大学大学院音楽研究科修士課程修了。ソリストとして、松尾葉子指揮藝大フィルハーモニア、故岩城宏之指揮オーケストラアンサンブル・金沢とR.V.ウィリアムスのチューバ協奏曲を共演した。チューバ奏者として管弦楽・吹奏楽・室内楽の領域で活動する傍ら、オーケストラを指揮する機会も増えてきており、上越交響楽団指揮者、新潟市・北区フィルハーモニー管弦楽団音楽監督を務めている。また有志により結成されたハセガワ・キネン・オーケストラではロシアの作曲家の作品を中心に取り組んでおり、昨年12月にはチャイコフスキーのバレエ音楽「くるみ割り人形」全曲の演奏会を行った。現在、上越教育大学大学院学校教育学研究科専任講師。



コンサートマスター

Samizo Ken-ichi 三溝 健一

長野県松本市出身。4歳よりヴァイオリンを始め、正岡紘子、天満敦子、山岡耕彦の各氏にヴァイオリンを、東京音楽大学にて井上將興氏にヴァイオリン及び室内楽を師事。また、肥沼きよ、竹内邦光、松本紀久雄、丸山嘉夫、汐澤安彦の各氏にピアノ、ソルフェージュ、音楽学、指揮法を師事する。学生時代から様々な分野での演奏活動を始めが、殊に室内楽では「ENSEMBLE藝弦」(弦楽合奏)と「室内楽“EAU”」(ピアノアンサンブル)を中心とした活動において研鑽を積み、現在は「音泉室内合奏団」を中心に演奏活動を展開している。ソロ、室内楽、オーケストラ、オペラ等の演奏活動に加えて、関東甲信越各地の市民・学生オーケストラにおいて指導者として活動の発展に尽力、また初心者から専門課程の学生及び演奏家まで幅広く後進の育成にもあたっているほか、編曲も多数手掛けている。足立シティオーケストラ／常任コンサートマスター・副指揮者。松本交響楽団／客演コンサートマスター・副指揮者。上越交響楽団、柏崎フィルハーモニー管弦楽団、他／コンサートマスター・トレーナー。音泉室内合奏団／ソロ・コンサートマスター・音楽監督。池袋音楽学院講師。“Gruppo Violini”主任講師。



語り

Ookoshi Satomi 大越 さとみ

読み聞かせサークル「ワンダーランド」代表。1996年(平成8年)から個人で読み聞かせを始める。1998年(平成10年)4月、読み聞かせサークル「ワンダーランド」結成。毎月第1・第3土曜日午後3時から、頸城区希望館の図書館頸城分館で「えほんのじかん」を実施、子供たちに本の楽しさを伝えている。2007年(平成19年)「ワンダーランドのえほん「ゆつくりゆきちゃん」」を出版。2010年(平成22年)新潟県読書推進運動協議会から優良グループとして表彰。今年度で結成15年を迎える。元BSN上越支社アナウンサー。



プログラム&曲目解説

ワーグナー 楽劇「ニュルンベルクのマイスタージンガー」第一幕への前奏曲

Richard Wagner(1813-1883) / Prelude to 1. Act “Die Meistersinger von Nürnberg”

中世ドイツにおいて職業の階級は、親方、職人、弟子の3つに区分されており、主要な職業において技を極めた者に親方(マイスター)の称号が与えられました。その中でも作詞、作曲、歌唱など音楽芸術の技能を兼ね備えた親方のことを親方歌手(マイスタージンガー)と称し、音楽芸術を高めるとともに庶民に普及させる役目を担っていました。

「ニュルンベルクのマイスタージンガー」は16世紀のニュルンベルクを舞台にした楽劇です。騎士ヴァルターが金細工職人の親方ボークナーの娘エファに恋しましたが、ボークナーは歌合戦での勝利者に娘を嫁がせるつもりでした。そのため、ヴァルターは靴屋のマイスタージンガーである主人公ザックスの助けを受けて歌を訓練しました。恋敵からの妨害もありましたが、歌合戦で勝利し、見事エファと結ばれるという物語です。

前奏曲では楽劇の主要な動機である「マイスタージンガーの動機」「行進の動機」「愛の動機」が堂々と奏されます。

チャイコフスキー バレエ音楽「白鳥の湖」から

Pyotr Ilyich Tchaikovsky(1840-1893) / Ballet music “Swan Lake”

チャイコフスキーの代表作である3大バレエ音楽「白鳥の湖」「くるみ割り人形」「眠りの森の美女」は、どれも単なるバレエの「伴奏」にとどまらず、音楽だけでも十分な迫力と説得力を持っています。

チャイコフスキーにとって初めてのバレエ音楽であった「白鳥の湖」は、モスクワのボリショイ劇場からの依頼により作曲され、1877年に初演されましたが、踊り手、振付師や指揮者に恵まれなかったことから評価が得られず、ほとんど再演の機会を与えられませんでした。その後十数年を経てチャイコフスキーが亡くなった後、サンクト・ペテルブルクのマリンスキー劇場での追悼演奏会に、振付師プティバとその弟子イワーノフによる新しい演出で再演され大成功を収めました。この成功をきっかけに世界で最も有名なバレエ音楽として今も広く愛されています。

今回は大越さとみさんの語りにより物語りを追いつつ、全4幕29曲の中から9曲を抜粋して演奏します。

1. 序奏
2. ワルツ
3. 情景
4. 4羽の白鳥たちの踊り
5. 王子とオデットのグラン・アダージョ
6. ハンガリーの踊り(チャールダーシュ)
7. ファンファーレ
8. パド・ドゥ
9. 終曲

- 休憩 -

フランク 交響曲ニ短調

Cesar Franck(1822-1890) / Symphony in D minor

フランクは1828年ベルギー生まれで、フランスで活躍した作曲家です。若き日に父親の意向でピアノの名手として活動しましたが、やがて演奏活動から退き、パリの教会オルガニストに転じた後に、パリ音楽院オルガン科主任教授に就任しました。以降、バッハやベートーヴェンに傾倒していたフランクは充実した作曲活動を行いました。交響詩を数曲残した以外に交響曲、交響的変奏曲、ピアノ五重奏曲、弦楽四重奏曲、ヴァイオリン・ソナタなどは、まるで狙いを絞ったかのように1曲ずつしか残していないのが創作の大きな特徴です。

今日ではこの交響曲はフランス新古典派の傑作とされていますが、1889年にパリ音楽院で初演された際の評判は極めて芳しくなく、冷評ばかりでした。

交響曲の構造上の特徴としては、用意周到な「循環形式」の構想を用いていることで、第1楽章冒頭に現れる葛藤の主題を随所に再三出現または発展させ、第2楽章の瞑想と問い掛けを経て、第3楽章の終わりに至って解決と歓喜を与えています。オルガン風に重厚なオーケストレーションと相まって「循環形式」が全曲にわたり統一性を持たせ、ベートーヴェン由来の「葛藤から苦悩を経て歓喜へ」という彼の基本理念を実現しています。

第1楽章 レント～アレグロ・ノン・トロツポ ニ短調

第2楽章 アレグレット 変ロ短調

第3楽章 アレグロ・ノン・トロツポ ニ長調

楽団紹介

1972年(昭和47年)結成。毎年2回開催している定期演奏会、各方面からの依頼演奏や行事への参加を通じて広く市民に愛されています。

上越市を中心に県内各地から音楽を愛する仲間が集い、質と達成度の高い音楽を表現すべく、様々な楽曲に挑戦しています。

2006年「新しい上越市民の歌とベートーヴェン『第九』を歌う集い」にて、上越市出身の指揮者、汐澤安彦氏と共演。2010年、上越文化会館30周年記念事業「くびき野の歌」に参加、好評を博しました。

現在は指揮者に上越教育大学の長谷川正規氏、コンサートマスターに三溝健一氏を迎え、充実した活動を展開しています。

